

# 令和5年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	・自立と社会参加を目指し「学びの連続性」「個のニーズに合わせた教育」を推進する。	・作成した「教科指導内容表」を活かした指導案で実践を重ね、小学部から高等部までの系統性を整理する。	・各教科において「教科指導内容表」を基に実践を重ね、内容表の検討・修正を継続すると共に、小学部から高等部までの系統性を検討する。	・各教科において、学部間の系統性を考えた内容表の検討・修正ができたか。
		・児童・生徒の命を守る教育を推進する。	・学校全体の防災教育計画を検討し、体系化する。	・各学部・校務グループ安全防災班と連携して、組織的に防災教育計画を検討し、体系化を進める。	・学校全体の防災教育計画が検討・体系化されたか。
2	児童・生徒 指導・支援	・アセスメントを充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導・支援を組織的に行う。	・各学部(学年)で計画的にアセスメントを実施し、個別教育計画に反映させる。	・アセスメントに係る研修を実施し、課題分析等職員の実践力を向上させる。 ・アセスメントから導かれた個別教育計画作成の実情を把握するため、教員アンケートを実施する。	・各学部(学年)で計画的にアセスメントが実施できたか。 ・研修を実施し、各学級でアセスメントに基づいた個別教育計画を作成できたか。
		・インクルーシブ教育に係る本校の役割を模索し、推進する。	・障がい理解を推進するため、効果的な交流学习及び近隣校職員と双方向の研修を進める。	・効果的な交流学习のあり方を検討し、実践につなげていく。 ・近隣校教員との研修等を行い、障がいのある児童・生徒への具体的な支援内容と方法を共有する。	効果的な交流学习のあり方を検討し、実践することができたか。 ・研修会後のアンケートで90%以上の肯定的評価が得られたか。
3	進路指導・ 支援	・卒業後の生活を見通し、小・中・高それぞれのライフステージに応じた進路指導・支援を実施する。	・進路の手引きの内容を職員間で共有し、各学部段階で身につけたい力と具体的な取組をまとめる。	・進路の手引きについて、職員に向けた研修を実施する。 ・各学部段階でのキャリア教育に関する指導内容表作成に向け、学習内容を整理する。	・職員間で手引きの内容を共有することができたか。 ・各学部で学習内容を整理することができたか。
4	地域等との 協働	・学校運営協議会を活用し、地域との連携を推進する。	・「農園活用」「遊び場づくり」を地域との連携で進め、児童生徒の活動を充実させる。 ・校内外へ情報を発信し、本校教育の地域理解を広げる。	・地域との連携を通して、野菜作りに関するプロセスや活動を見直すことで、地域との連携や協働を深める。 ・校内外への情報発信をして、関わる人の輪を広げる。	・地域との連携により、児童生徒の活動が改善されたか。 ・校内外へ情報を発信する機会を増やすことができたか。
		・センター的機能の更なる推進を図る。	・地域を支援する人材の育成を図る。 ・本校の特別支援教育のノウハウを発信する。	・来校相談や出前授業を子ども支援班員が担当し、地域の学校の課題や地域を支援するための知識を得る。 ・教材教具や支援の手立て等を学校訪問やHP等を活用し、情報発信の準備を進める。	・校内の人材育成を図ることができたか。 ・教材等の校内資源データを整理し、情報発信することができたか。
5	学校管理 学校運営	・事故不祥事防止を徹底する。	[事故]不祥事防止会議・研修会において、事故・ヒヤリハット事例について職員で共有する。 [人権]各学部(学年)で、テーマを設定、人権に配慮した行動に取り組む。	【事故】毎月実施の研修会の他に、随時必要に応じて注意喚起を行い、情報を共有する。 【人権】各学部(学年)で、学期ごとに行動テーマを設定し、人権に配慮した行動に集中的に取り組む。	【事故】事故・ヒヤリハット事例について、職員で共有できたか。 【人権】学部ごとにテーマを設定し取り組めたか。
		・児童生徒と向き合う時間を確保するため、校務の効率化を図る。	・効率化に向けて職員の意識を高め、業務の見直し・時間外勤務の是正を図る。	・各学部・グループ等運営計画に「業務の効率化・縮減について」継続して位置付け、進める。 ・新たに効率化を図った事項について見える化する。 ・令和4年度からの取り組みについて企画会議で総括し、今後の方針を検討する。	・各学部・グループで位置付けし、効率化を進めることができたか。